



高村智恵子 紙絵「道具箱」昭和12～13年(1937～38)

智恵子は死んでよみがへり、  
わたくししの肉に宿つてここに生き、  
かくの如き山川草木にまみれてよろこぶ。  
……  
小さな山小屋の囲炉裏に居て  
ここを地上のメトロポオルとひとり思ふ。

智恵子抄『メトロポオル』より

平成28年

7月15日(金)～

11月23日(水・祝)

開館 午前8時30分 閉館 午後4時30分 会期中無休

高村光太郎記念館

〒025-0037 岩手県花巻市太田3-85-1

☎&FAX 0198-28-3012



光太郎と智恵子 大涌谷にて 昭和2年(1927)

# 智恵子の紙絵

企画展

高村光太郎没後六〇年・高村智恵子生誕一三〇年



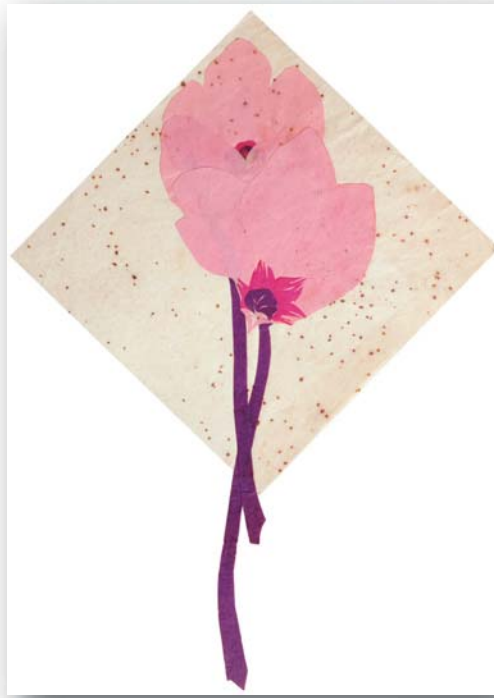
紙絵「くだものかご」



紙絵「兎の餅つき」



紙絵「いちご」高村光太郎画賛



紙絵「シクラメン」

智恵子が憧れてみた深い自然の真只中に  
運命の曲折はわたくしを叩きこんだ。  
運命は生きた智恵子を都会に殺し、  
都会の子であるわたくしをここに置く。  
岩手の山は荒々しく美しくまじりけなく、  
わたくしを囲んで仮借しない。

智恵子抄『メトロポオル』より

彫刻家で詩人として知られる高村光太郎。その妻、智恵子は雑誌『青鞥』創刊号の表紙絵を描き、新鋭の画家として注目されるなか光太郎と出会い、結ばれました。結婚後、智恵子は自身の油絵に対する芸術的苦悩や実家の一家離散が重なり、心の病に侵され睡眠薬で自殺を図ります。一命は取りとめたものの長い療養生活に入り、その後回復することなく、昭和13年に入院先のゼームス坂病院でこの世を去ります。享年数え53歳の生涯でした。

晩年の智恵子は作業療法として身の回りにあった色紙や包装紙など、様々な紙をマニキュア鋏で切りぬき、台紙に貼りつける「切り抜き絵」を多く制作します。それらは光太郎ただ一人に見せるために作られました。後に光太郎は智恵子の遺作となった切り抜き絵を「紙絵」と名づけました。太平洋戦争の空襲で光太郎はアトリエを全焼し自身の作品の多くが焼失しましたが、智恵子の紙絵は花巻など地方へ疎開させていて難を逃れました。

智恵子が生みだし、光太郎が守り抜いた紙絵。紙絵の疎開先であり、詩集「智恵子抄その後」が送り出された当地で開催する企画展で、繊細な表現と独自の色彩感覚を持つ智恵子の紙絵をご覧ください、光太郎と智恵子の思いを感じていただければ幸いです。



**花巻駅～高村山荘 路線バス運行中**  
(4/1～11/30まで毎日運行)

駅前6番のりば～高村山荘	高村山荘～花巻駅前
10:45→11:10	11:45→12:10
	12:35→13:00
	13:35→14:00

**高村光太郎記念館**

〒025-0037 岩手県花巻市太田3-85-1 ☎0198-28-3012  
開館 午前8時30分 閉館 午後4時30分 休館日 12月28日～1月3日

**高村山荘・高村光太郎記念館 入場料**

一般 550円／高校生・学生 400円／小・中学生 300円  
※団体入場(20名以上)は上記から一人あたり100円割引